

令和元年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	中原区第4グループ(新城・大戸・宮内)	評価対象年度	令和元年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H30		R1		H30		R1	
	1 新城こども文化センター ①年間延べ利用者数	34,180人	36,005人	②年間延べ利用団体数	166団体	154団体		
2 新城小学校わくわくプラザ ①登録者数	405人	404人	②年間延べ利用者数	29,707人	26,741人			
1 大戸こども文化センター ①登録者数	42,327人	37,896人	②年間延べ利用者数	363団体	333団体			
2 大戸小学校わくわくプラザ ①登録者数	475人	454人	②年間延べ利用者数	26,309人	26,285人			
3 大谷戸小学校わくわくプラザ ①登録者数	486人	465人	②年間延べ利用者数	32,387人	32,390人			
1 宮内こども文化センター ①年間延べ利用者数	34,737人	33,650人	②年間延べ利用団体数	327団体	306団体			
2 宮内小学校わくわくプラザ ①登録者数	389人	363人	②年間延べ利用者数	21,501人	19,510人			
3 中原小学校わくわくプラザ ①登録者数	419人	428人	②年間延べ利用者数	32,865人	28,554人			
収支実績	単位:円							
1 収入								
指定管理料	175,585,395							
補償金	1,464,510							
合計								
2 支出								
人件費	125,320,838							
管理費	11,110,208							
事務経費	7,362,632							
その他経費	7,436,096							
合計	151,229,774							
3 差引	25,820,131							
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。							

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	3	6
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・新城こども文化センターでは、新たに子ども運営会議等の意見を参考に、「OKOME'S キッチン」を実施し、クッキーづくり・マシュマロ作り・お茶会等を通じて、子どもたちの食への理解や感謝の気持ちの醸成に取り組むとともに、町内会の子どもの育成部とも新たに連携し、「新城神社」での発表会を実施する等、地域交流を図った。また、ベビーマッサージの対象年齢拡大や、乳幼児向けに実施していたヨガ講座を、より幅広い世代向けに実施する等、既存事業の工夫を行うことで、参加者の増加に繋がっている。 ・宮内こども文化センターでは、乳幼児親子を対象とした事業の「きりんひろば」の新たな取組として、「こまちゃんず劇場」を実施し、ペープサートやエプロンシアターを通じて、参加者の増加に繋がっている。また、新たな取組として、中高生のテスト期間に合わせて「学習タイム〜こども文化センターで勉強しよう〜」を開催したほか、地域の成人を対象に「こ文でヨガ〜心と体をリフレッシュ〜」を実施し、幅広い年齢層の利用拡大に取り組んだ。 ・大戸こども文化センターでは、新たに「あそびのひろば〜プログラミングであそぼう〜」を実施し、中庭を利用したテーマパークでの遊びを通じて、子どもの発達や親子交流を図った。また、携帯電話ショップの協力を得て、「プログラミング教室」を複数回実施し、子どもたちにゲーム感覚でプログラミングの考え方を学ぶ機会を提供した。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ及びセルフモニタリング	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	4	8
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		セルフモニタリングについて、適切に実施しているか。			
		利用ニーズの把握、セルフモニタリングの実施の結果、業務改善につながっているか。			
	苦情等への対応	利用者からの苦情や指摘事項、意見への対応などが適切に行われているか。	5	3	3
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	4	4
学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体、地域住民、施設等との連携がなされているか。	10	4	8	
施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4	
わくわくプラザの充実	・①わくわくプラザ多世代交流促進事業、②学習タイム、③わくわくプラザメール配信サービス、④「地域の寺子屋事業」との連携(実施していないわくわくプラザについては、実施に向けた検討・調整等)について取り組み、わくわくプラザ事業の充実を図っているか。	5	3	3	
(評価の理由) ・利用者ニーズ及びセルフモニタリングについて、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通じて把握に努め、購入図書を選定等に反映している。宮内こども文化センターでは、保護者からの要望に応え、曜日を変えて行事を開催し、参加者の増加に繋げることができた。また、法人作成様式を用いセルフモニタリングを実施、職員で結果を共有し運営の振り返りに役立っている。 ・苦情等への対応について、苦情処理の体制・手順について整備され、相談窓口について利用者へ周知されている。結果として、大きな苦情事案はなかった。 ・特別な配慮を要する児童への対応について、保護者、学校との情報交換を図りつつ、巡回相談員に相談して適宜具体的なアドバイスを受けるなど、適切な対応が図られている。また、「気になる子の対応研修」や「障がい児事例検討」を行うことで、職員間での共通理解及び対応力向上を図っている。 ・学校及び行政機関との連携について、事業を推進する上で、学校及び行政機関に加え、地域団体等と連携した取組がされている。中原小学校わくわくプラザでは、NPO法人の「かわさきスポーツドリーマーズ」と連携し、小学校敷地内の草むしりを行った。「かわさきスポーツドリーマーズ」には、日頃から児童を見守ってもらえるようになり、わくわくプラザの安全性向上に繋がった。また、宮内小学校のPTAが主催した「地域の安全を考える会議」に参加し、その内容を避難訓練に取り入れる等、水害等に備えた地域防災に取り組んでいる。 ・施設・事業の広報について、周知のための広報等を定期的に行っており、乳幼児向けや中高生向け等、対象年齢を捉えた広報を行っている。特に、新城こども文化センターでは、地域版のこども文化センターだよりを4町内会長の理解と協力を得て、町内掲示板に合計80部掲示することにより、行事の参加者の増加に繋がることができた。 ・わくわくプラザの充実については、多世代交流促進事業を実施し、多世代・地域交流が図られているほか、学習タイムの実施、適時適切なメール配信、地域の寺子屋の連携など、わくわくプラザ事業の充実に取り組んでいる。					

組織管理体制	子ども文化センターにおける適正な人員配置	<p>「仕様書」において定める職員配置の最低基準が遵守されているか。⇒①館長1名配置、②スタッフリーダー2名以上配置、③館長とスタッフリーダーの勤務を割り振らない日が重ならないように配置、④利用時間を通じて常勤職員1名以上配置⑤常勤職員配置1名の場合パートナーを配置、⑥12時30分から18時まで常勤職員2名以上配置(常勤職員を配置できない場合、常勤職員1名につき、パートナー2名の配置)</p> <p>「川崎市契約条例」が遵守されているか。</p>	5	3	3
	わくわくプラザにおける適正な人員配置	<p>「仕様書」において定める職員配置の最低基準が遵守されているか。⇒①長期休業日等の開室時間の延長対応、②放課後児童健全育成事業の対象児童以外の利用児童概ね20名につき、チーフサポーター1名以上配置、③参加児童数の多い時間帯に学校の特別教室等を使用して、複数箇所に分かれて事業を実施、④わくわくプラザ事業に、月～金の9:30から18:00まで常勤職員を配置</p> <p>「川崎市契約条例」が遵守されているか。</p>	5	3	3
	職員の研修体制	<p>職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。</p> <p>職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。</p>	10	4	8
	個人情報等の取扱	<p>法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。</p> <p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども文化センターの適正な人員配置については仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 わくわくプラザの適正な人員配置については仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 職員の研修体制については、職員が市の研修を受講するとともに分野ごとの法人としての研修が行われている。予め研修計画を立てた上で館長主導で各職員の研修受講の促し及び管理を行っている。また、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員が報告しているほか、研修資料やレポートをファイル等に一元化し、職員が閲覧できる等、知識を共有している。 個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。 	5	3	3
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備(AEDを含む)の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		建築物定期点検及び建築設備定期点検の実施が適切に行われているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	10	4	8
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
施設の防犯対策に工夫がなされているか。					
災害発生時に備えた対応が図られているか。					
災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。					
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理については、子ども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、修繕・補修が必要な場合は本部組織を中心に各施設の修繕要望から優先順位を考慮し、適宜補修工事等を実施している。 利用者の安全確保について、法人作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行うとともに、各事例を館長会議で共有し、各館で事例検討会などを開催して議論を重ねることで、職員の意識向上を図っている。グループ合同で「子どものケガ対応研修」、また、各子ども文化センターでは「事故対応研修」や「防犯・不審者対応研修」を実施して職員のスキルアップを図っており、利用者の安全を確保するための体制が整っている。 防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。第4グループの子ども文化センターでは、「川崎市ぼうさい出前講座」を受講したほか、大戸子ども文化センターでは「防災研修」を実施する等、職員の意識づけを図っており、防犯・防災対策に積極的に取り組んでいる。 					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な金銭管理・会計手続について、法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされている。 受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。 					

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

子ども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に長年に渡り携わってきた経験を活かし、安定した施設運営を実施している、市内20グループの指定管理を行うスケールメリットを活かし、全グループ合同行事、区合同行事等に加え、各館独自の事業も行き、豊富な行事を行った。特に、洪水浸水想定区域にある宮内子ども文化センターにおいて、地域の団体と課題を共有しながら協働の取組が行われるとともに、グループ全体で受講した市の防災講座において、近隣地域の地形の特徴や昨今の災害によるデータを基にした講義を受ける等、地域の特性に合わせた取組を行っている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、より一層、「地域の寺子屋事業」との連携について取り組み、わくわくプラザの充実を図ること。また、利用者ニーズを把握するにあたっては、多様な媒体を活用して意見を聞き、事業実施に適切に反映することで小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。また、新型コロナウイルスの感染予防のための「新しい生活様式」を踏まえた子ども文化センター及びわくわくプラザの運営に取り組むこと。